



仙台塩釜港復興だより 第17号

— 港湾は人の心も結んでいます —

災害復旧工事の進捗について

宮城県仙台塩釜港湾事務所では、東日本大震災により被災した公共土木施設の災害復旧工事を進めています。平成27年3月25日時点における仙台塩釜港の公共土木施設の査定件数に対する発注件数の割合は、76%となっており、防潮堤とその関連施設を除いた発注率は、94%となっています。

仙台港区においては、一部施設を残し復旧を完了しており、塩釜港区、松島港区につきましても、発注率がおおよそ7割となっており、引き続き復旧工事を進めています。復旧が遅れている防潮堤の復旧を含め、一日でも早い復旧を目指して取り組んで参ります。

平成27年3月25日時点での発注率を示す表と各港区の復旧状況を示す箇所図は下記のとおりです。

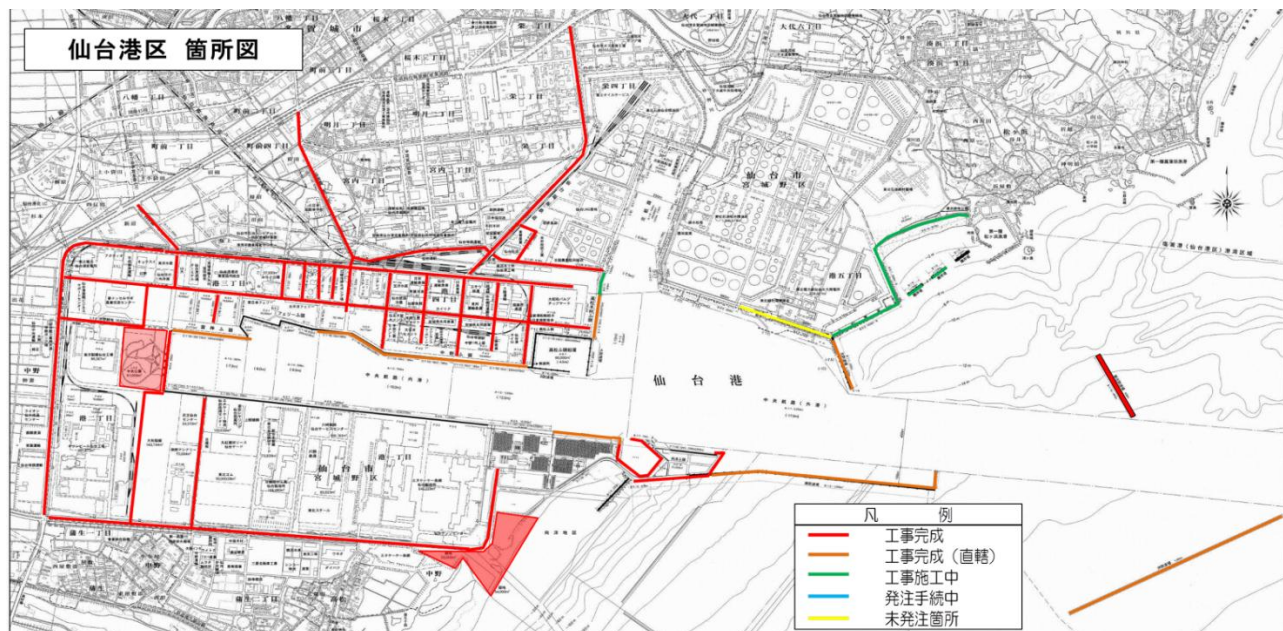
公共土木施設全体の災害復旧工事 (箇所毎)

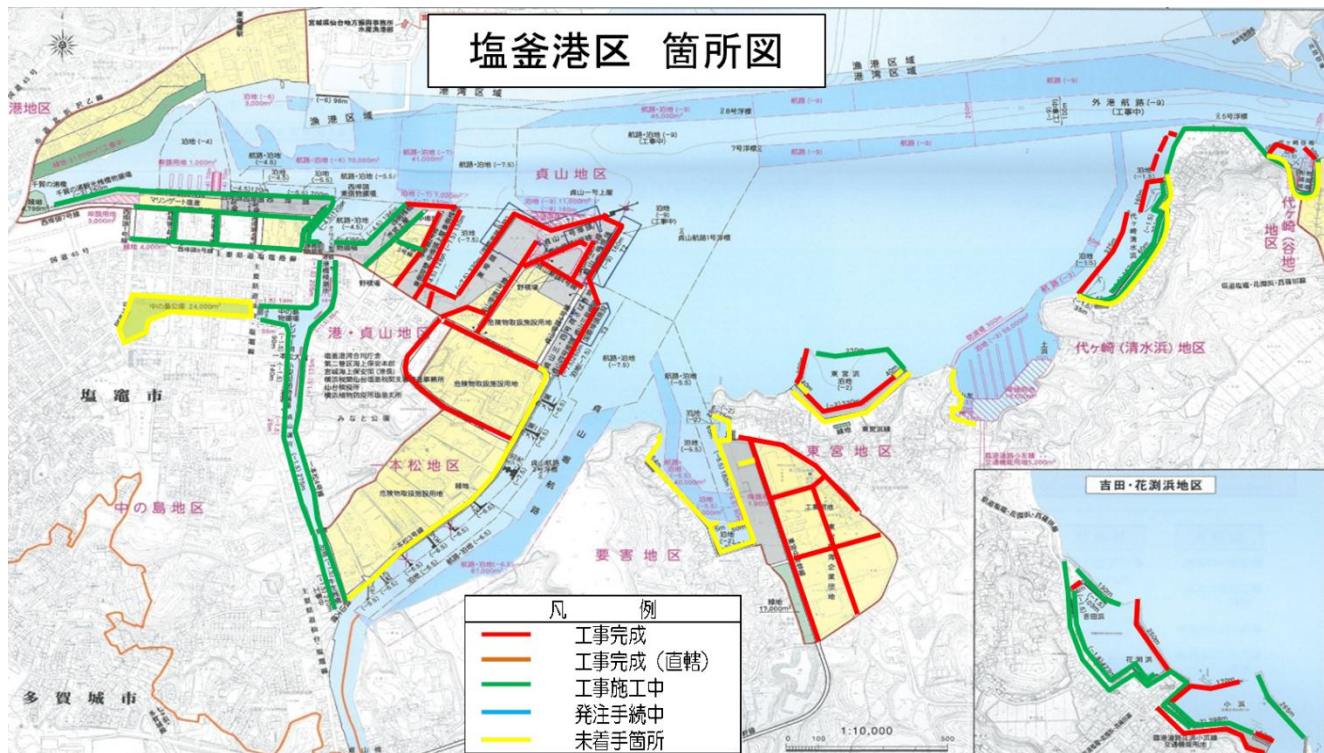
	査定件数	発注件数	発注率
仙台塩釜港 (仙台港区)	48	48	100%
仙台塩釜港 (塩釜港区)	118	80	68%
仙台塩釜港 (松島港区)	24	16	67%
合 計	190	144	76%

防潮堤関連除く災害復旧工事 (箇所毎)

	査定件数	発注件数	発注率
仙台塩釜港 (仙台港区)	45	45	100%
仙台塩釜港 (塩釜港区)	83	75	90%
仙台塩釜港 (松島港区)	16	16	100%
合 計	144	136	94%

平成27年3月25日現在





●工事が完了した桂島スリス浜防波堤



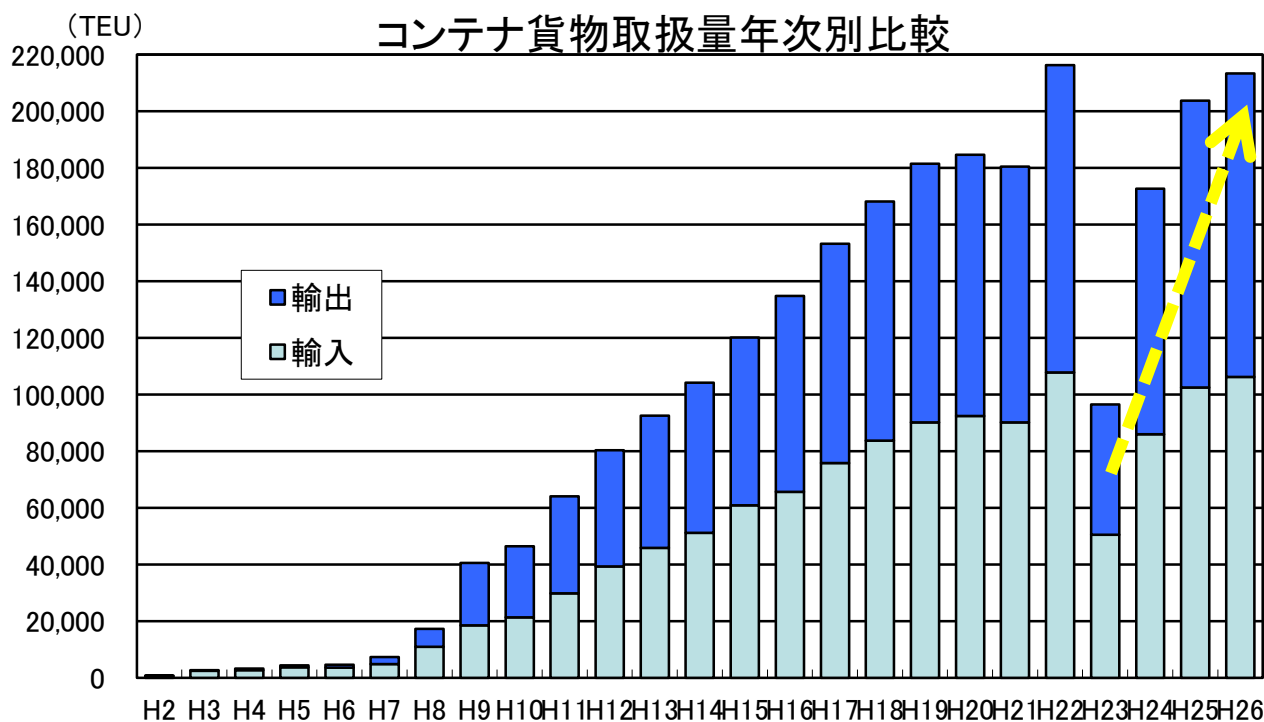
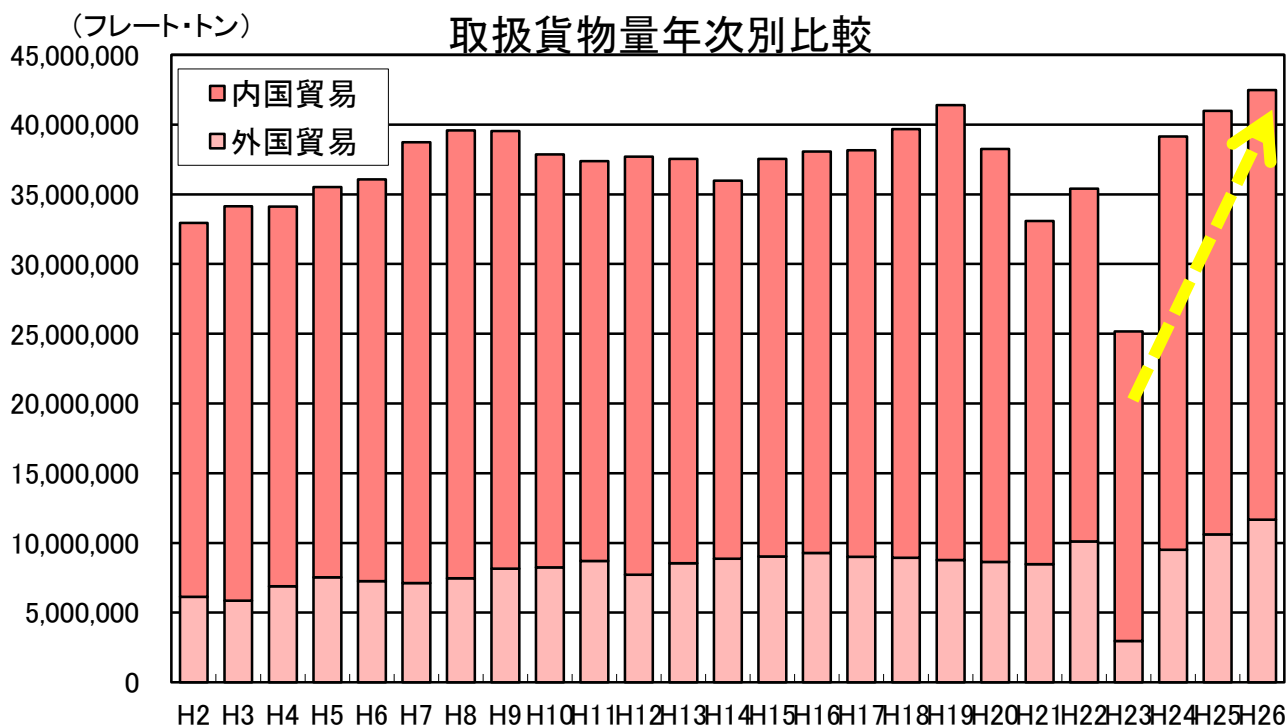
●工事が完了した海岸前浮さん橋

平成26年の貨物取扱量の速報値について

仙台塩釜港（仙台港区・塩釜港区・松島港区）における平成26年の取扱貨物量は約42,474千トンとなり、震災前の平成22年と比較すると約120%となります。また、平成25年と比較すると約104%となり、震災以降、着実に貨物量が増加しています。

一方、コンテナ貨物については、平成26年のコンテナ貨物取扱量は約213千TEUとなり、平成25年の取扱量約203千TEUと比較すると、約105%となります。また、平成22年と比較すると約99%となり、ほぼ震災前の水準まで回復しています。

今後も災害復旧工事を着実に実行し、これまで以上に利便性の高い港として整備を進めるとともに、東北唯一の国際拠点港湾として、引き続き物流の活性化を進め、さらなる貨物取扱量の増加を図ってまいります。



仙台塩釜港で働く応援職員のみなさん

仙台塩釜港で働く応援職員の方々の紹介は本号で第四回となります。今回は、東京都から応援に来ていただいている「森野 亮吾さん」です。

平成26年度も多くの応援職員の方々に復旧・復興のご協力をいただきました。ありがとうございました。

平成27年度も多くのご協力をいただくことになると思いますので、次号以降も応援職員の方々の奮闘ぶりを紹介していきます。

「森野 亮吾さん」(東京都応援職員)

1月から3月末までの3ヶ月間、東京都から宮城県仙台塩釜港湾事務所に派遣となった森野です。

1月から業務を始めて、時間が過ぎる早さを痛感しています。

災害復旧業務に当たっては、背後地の利用等、住民や事業者との調整に時間を要し、工事が思うように進まない点に歯がゆさを感じています。

こちらに来て県内の被災地と復興事業を見学させていただきました。メディアからの情報で知ってはいたものの、実際に目の当たりにするとその被害の甚大さ、復興事業の規模の大きさに驚かされました。だからと言って復興事業を遅らせる訳にもいきません。まだ事業量は多く残っているものの、復興事業に携わる多くの方々の不断の努力によって着実に前進していることが感じられます。

短い期間ではありますが、私にとってこの復興事業に携わることは、非常に重要で貴重な経験です。行政職員として従事する今後の業務に対しても有益なものとなります。

東京都が平成25年度から担当した工事の一つが3月末で完了します。このように少しずつではありますが、復興への寄与となるよう残された時間を大切に全力で取り組みたいと思います。

編集事務局

宮城県仙台塩釜港湾事務所 編集委員

〒983-0001

仙台市宮城野区港三丁目1-3 アクセル5階

TEL 022-254-3132

FAX 022-254-3136

E-mail sdsgkowns@pref.miyagi.jp



● 工事が完了した高砂船溜まり



● 工事が完了した高砂南防波護岸